

I 2017年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2017年度大学評価結果総評】

経済学部商業学科通信教育課程では、メディアスクーリングの早期導入、多様な形態でのスクーリングの実施など、さまざまなニーズを持つ学生の選択肢を広げつつ、学習成果の向上を図るための取組みが進んでいることは高く評価する。一方で、定員充足には通信教育課程の共通の課題ではあるが、商業学科独自の取り組みに期待したい。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

通信教育部の重点目標であるメディアスクーリングの拡充に向け、商業学科通信教育課程は、2017年度に21科目を開講した。2018年度には23科目（その他1科目休講）の開講を予定しており、通信教育部全体の2018年度開講科目目標70科目の達成に大きく貢献することができた。通信教育部メディアスクーリングは、HOSEI2030「教育のオープン化」において先行事例として深く関係していくことが期待されているため、引き続き拡充を進める方向である。同時に、メディアスクーリングの質を担保するために、必要に応じて撮り直しを行うなどの対応があり、また今後も対応して行く予定である。なお、メディアスクーリングの安定的運営のためのサーバ移転拡充も完了し、2018年度から稼働中である。

商業学科は、在籍者数基準では2014年度以降、入学者数基準では2007年度以降に、通信教育部の先頭に立っているものの、通信教育部共通の課題でもある定員充足のためには一層の努力が求められている。それに向けて、学務部教学企画課と密に連携をとり、文部科学省への対応を継続していきたい。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

経済学部商業学科通信教育課程は、HOSEI2030「教育のオープン化」の先行事例としてメディアスクーリングの拡充に深く関係することが期待され、2017年度に21科目を開講し、2018年度にも23科目の開講を予定していることを高く評価したい。

商業学科は通信教育課程の中で入学者数基準では2007年度以降、在籍者数基準では2014年度以降で先頭に立っている点は評価できるが、定員充足化に向けて今後も一層努力されることを期待したい。

II 自己点検・評価

1 理念・目的

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【理念・目的】

通信教育部は、設立当初は、時代の要請を反映し、全国の勤労学生に高等教育を施すべく広く門戸を開放して学ぶ場を提供してきた。しかし、社会の推移とともに除々にその使命も変容し、現在の「生涯学習の担い手」という新たな社会的役割が付加されて今日に至っている。また、「いつでも、どこでも」情報ネットワークにアクセス可能というユビキタス社会の到来を睨み、情報通信技術の急速な発展と歩を一にし、「いつでも、どこでも」学べるという特長を一層活かす教育環境の整備とその地位の確立に努めている。

【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的】（教育目標）※通信教育部学則別表（7）

理念・目的をもとに、入学者の幅広い年齢層、多種多様な学問的関心、様々な入学動機などに応じるために、「本科生」、「教職生」、「選科生」といった複数の就学コースを設けるとともに、春・秋・夏・冬期スクーリングをはじめ、地方・週末・メディア・ゴールデンウィークスクーリングなど、多彩なスクーリングを開講している。特に、メディアを利用した「メディアスクーリング」は、時間の制約が多い社会人学生にとって、大きなメリットとなっている。

これらの制度と教育環境の整備を通じて、真に学ぶ意欲と適性のある学生に対し、通学課程と同一水準の教育を施し、個々の学力向上を図ることはもちろん、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献しうる人材の育成を目標としている。

また、通信教育部学則第1条では、通学課程と同様の教育目標を掲げている。

①学部（学科）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか。 はい いいえ

②学部（学科）の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。 はい いいえ

③理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

（～400字程度まで）※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

理念・目的の適切性について、通信教育課程主任と学務委員を中心に検証を行い、通信教育学務委員会と経営学部教授会で提案・審議を行っている。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

①学部（学科）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。 はい いいえ

②どのように理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。

(～400 字程度まで) ※具体的な周知・公表方法を記入。

本学通信教育部ホームページにおいて本学科の教育理念および教育目標について広く周知していると共に、年度毎に学生に配本している『学習のしおり』を通じて公表している。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし。	

【この基準の大学評価】

通信教育課程の設立当初は勤労学生に学びの門戸を開放し学びの場を提供してきたが、「生涯学習の担い手」という社会的役割が付加され、さらに「いつでも、どこでも」学べる教育環境の整備へと、時代の要請を反映した理念の変化が明確に築かれており、大変評価できる。理念・目的の適切性については、通信教育学務委員会にて検証を行い、教授会にて提案され審議されている。

通信教育部学則第 1 条で、通学課程と同様の教育目標を掲げている。学科の教育理念と目標は通信教育部ホームページで広く公開され、学生には『学習のしおり』で周知している。

2 内部質保証

【2018 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証に関する活動は適切に行われていますか。 はい いいえ

【2017 年度の質保証に関する活動概要】 ※箇条書きで記入。

- ・通信教育課程の学事事項は、通信教育学務委員会にて審議事項である
- ・必要に応じて、各学部教授会の審議・報告事項としている
- ・通信教育学務委員会の委員の内、1 名は FD アドバイザー・ボードの構成員である
- ・通信教育部事務部管理職は、FD アドバイザー・ボードの構成員である
- ・シラバスの第三者確認は、質保証委員会を主催する教授会執行部のメンバーでもある通信教育課程主任と、学務委員で実施
- ・通信教育課程主任と学務委員設置による運営責任の明確化した組織体制

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【この基準の大学評価】

経済学部商業学科通信教育課程では、FDアドバイザー・ボードの構成員1名が含まれた通信教育学務委員会と学部教授会との連携のもとで、質保証に関する活動が適切に実施されている。

3 教育課程・学習成果

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	
<p><b>【学位授与方針】</b></p> <p>「自由と進歩」の建学の精神を理解し、年齢に関係なく学問的関心を持ち続け、何事にも挑戦し続ける姿勢を持つことを前提とし、人文・社会・自然などに関する幅広い教養と、通学課程と同一水準の、時代の先端を行く専門分野の学識を取得し、生涯学習社会において、自立的に自由な発想と柔軟な判断が出来る能力を修得することを学位授与の方針とする。</p> <p>商業学科においては、経営学、会計学、商学及び経済学の専門分野を網羅した専門科目について、スクーリングなどを通して履修し、所定の科目を含め124単位を修得した者に対し、学位を授与している。</p>	
①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	
<p><b>【教育課程の編成・実施方針】</b></p> <p>通学課程と同様であることを原則としているが、多様な学習ニーズを持つ通信教育部の学生に配慮し、通信教育部独自のカリキュラムを編成する必要がある。併せて、メディア授業をはじめ、地方・週末スクーリング等、社会人学生の利便性向上を目的とした授業形態の工夫を行うことが求められる。</p> <p>商業学科における経営専門科目を中心としたカリキュラムは、簿記・会計学、経営管理、経済史、統計学、経済・社会政策、人的資源管理、商法、民法、労働法などを幅広く網羅したものであり、通学課程（本学経営学部）のカリキュラムとほぼ同等の編成となっている。</p>	
①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p><b>【根拠資料】</b> ※冊子名称やホームページURL等。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <a href="http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/target.html#menu">http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/target.html#menu</a></li> <li>・ <a href="http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/diploma.html#menu">http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/diploma.html#menu</a></li> <li>・ <a href="http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/curriculum.html#menu">http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/curriculum.html#menu</a></li> </ul>	
③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と関連性の検証プロセスを具体的に説明してください。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。</p> <p>各種データの収集や授業改善アンケートを実施し、学習効果や満足度等の把握を継続して行っている。通信教育学務委員会において、経年（カリキュラム変更前後）における成績分布や単位修得試験受験者数・レポート提出数等のデータも提示されている。シラバス第三者確認を活用し、適切に単位修得方法の厳正な運用ができるよう、環境整備を行っている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特になし</li> </ul>	
3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <p>通信教育課程は、通信学習および各種スクーリングの2つの形態で授業を実施しているが、特にスクーリングは、昼間6日間の夏・冬期スクーリング、夜間15週の春期・秋期スクーリング、週末3日間の週末スクーリング、全国主要5都市での地方スクーリング（3日間）、これにインターネットを利用したメディアスクーリング、ゴールデンウィーク中の3日</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

間に行うGWスクーリングとその形態は多様である。また、夏期スクーリングでは、より社会人が受講しやすいよう 18:30～の時間帯に授業を開講し、そのニーズに応じている。通信教育部の重点目標であるメディアスクーリングの拡充に向け、商業学科は、2017年度に21科目を開講した。2018年度には23科目（その他1科目休講）の開講を予定しており、通信教育部全体の2018年度開講科目目標70科目の達成に大きく貢献することができた。これら多様なスクーリングは、さまざまなニーズを持つ多くの学生にとって、選択肢の幅を広げるのみならず、能力育成の観点からも大きなメリットとなっている。

**【根拠資料】** ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

・通信教育部ホームページ

<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/schooling/>

・メディアスクーリング開講科目（商業学科主催）\_20180508（通信教育部事務局より）

②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系的性を確保していますか。

S  A B

（～600字程度まで）※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

2013年度から大幅なカリキュラム改革を実施し、できる限り通学課程のカリキュラムと同等の科目内容に改め、経営学・会計ファイナンス・商学に関連する領域を広く履修できるように配慮した。また、真に学ぶ意欲と適性のある学生に対し、通学課程と同一水準の教育を施し、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献しうる人材を育成するための授業科目を体系的に配置した。2単位構成の科目を原則として、より柔軟な履修体系とし、幅広い履修ができるようにしたことも、学生から好評を得ている。これにより、日本の通信教育課程において、体系的な経営学の教育を実現した学科の1つとなっている。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

・『2018入学案内』、p.15、商業学科履修科目と卒業要件

3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S  A B

**【履修指導の体制および方法】** ※箇条書きで記入。

・Web学習相談制度

・ステップ型の学習ガイダンス（1ステップ：職員による制度説明・2ステップ：卒業生による経験談他・3ステップ：教員による学習指導他）

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

S  A B

（～400字程度まで）※取り組み概要を記入。

通信学習を進めるにあたり、生じた疑問点に質問することが可能な「学習質疑」制度があり、直接担当教員の指導を受けることが可能となっている。また、スクーリング時においてもオフィスアワーを設置している。夏期・冬期スクーリングにおいて「通教生のつどい」を実施し、学生間のみならずこれに参加する教員・学生間での情報交換も可能となる場の提供も行っている。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

・通信教育部ホームページ

<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/>

・『法政通信』、各年月号

③1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。

はい  いいえ

**【履修登録単位数の上限設定】** ※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位数の上限を記入。

年間履修単位数上限を49単位までと定めている。スクーリングの年間登録単位数を、教職・資格科目も含め49単位までと定めている。

**【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】** ※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。

本科生は教職・資格科目を49単位とは別に、原則合計60単位まで履修できる。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

・法政大学通信教育部学則

・『学習のしおり2018』、p.28、単位制度

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・『2018 入学案内』、p. 48、科目等履修生（選科生・教職生）受講条件	
④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<b>【検証体制および方法】</b> ※簡条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。 ・ 質保証委員会を主催する教授会執行部でもある通信教育課程主任と、学務委員による全シラバスチェック <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 特になし	
⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<b>【検証体制および方法】</b> ※簡条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。 ・ 授業改善アンケート質問事項「授業の運営が適切であった」等で確認 <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 特になし	
3.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<b>【確認体制および方法】</b> ※簡条書きで記入。 ・ 成績評価方法と単位認定の内容の明記および遂行 ・ 通信学習_設題総覧「設題解答にあたっての解説・注意等」 ・ シラバス「成績評価基準」 ・ スクーリング・シラバス「成績評価基準」、「講義内容」「予習範囲」等単位認定への道筋を記載 <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ Web シラバス記載のシラバス	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
（～400 字程度まで） ※取り組み概要を記入。 編入学者の単位認定は、2 年次・3 年次および本学通学課程からの 4 年次編入、学士入学者ごとに認定範囲を定めており、併せてスクーリング単位についても一定の範囲で認定を行っている。また、在学中に放送大学で修得した単位を最大 10 単位まで本学のスクーリング単位として認定する制度もある。 <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 通信教育部ホームページ <a href="https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/admission/accreditations/">https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/admission/accreditations/</a> ・ 『学習のしおり 2018』、p. 28、編入学時の単位認定 ・ 『学習のしおり 2018』、p. 132、放送大学単位認定	
3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<b>【データの把握主体・把握方法・データの種類等】</b> ※簡条書きで記入。 ・ 進級判定は、卒業判定と併せて教授会審議事項 ・ 成績分布/レポート数/単位修得試験者数/スクーリング受講者数等は、通信教育学務委員会を通じて教授会に報告 <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 特になし	
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
（～400 字程度まで） ※取り組みの概要を記入。 リポートと卒業論文などの学習成果物に対しては、経営学部教授会等で Turnitin などの不正行為防止用ソフトウェアの利用を科目担当教員に促し、学習成果の客観的な評価に努めている。 <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 特になし	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
（～400 字程度まで） ※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

通信科目はレポート添削に加え、単位修得試験（筆記試験）によって一連の学習の最終的な到達点を測定している。スクーリングでは、授業の最終日に実施する最終試験（筆記試験）でその成果を測っている。また、メディアスクーリングでは、中間レポートを課している科目も多くあり、学習効果の向上を心掛けている。

【**根拠資料**】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信教育部全体の問題でもあるが、商業学科の場合も、在学期間の短縮化と離籍率の軽減のために更なる取り組みが必要である。</li> <li>・引き続き、通学課程と連携しながら 2019 年度施行の教職課程の再課程認定に対応して行く必要がある。</li> </ul>	

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること (3.1～3.2)

経済学部商業学科通信教育課程は、幅広い教養と通学課程と同一水準の専門分野の学識を取得することを求め、124 単位の科目を修得した者に学位を授与する、という学位授与方針を定めている。

教育目標、教育課程の編成・実施方針も適切に設定され、学位授与方針と共に通信教育部ホームページ等で公表されている。それらの検証としては、学生アンケートによる満足度や学習成果の測定、成績分布、単位修得試験受験者数、レポート提出数等のデータを用いて行われている。

②教育課程・教育内容に関すること (3.3)

経済学部商業学科通信教育課程は、多様な形態のスクーリングを数多く提供し、さらにメディアスクーリングの開講科目を増やすことによって、様々なニーズを持つ学生の選択肢を広げ、能力を育成することのできる教育課程の編成が施されている。

一方で 2013 年度から、順次性・体系性が確保された通学課程と同等の科目内容となるよう大幅なカリキュラム改革を行い、通学課程生と同一水準の教育を行う取り組みがなされている。

③教育方法に関すること (3.4)

経済学部商業学科通信教育課程は、Web 学習相談制度やステップ型学習ガイダンスにより、履修指導が適切に行われている。学習指導に関しては、直接担当教員の指導を受ける「学習質疑」や、スクーリング時におけるオフィスアワーと「通教生のつどい」で行っている。

年間の履修登録の上限は 49 単位までと定められ、通信教育課程主任と学務委員によるシラバスチェックが適切に行われている。授業がシラバスに沿って適切に行われているかについては、授業改善アンケートで確認している。

④学習成果・教育改善に関すること (3.5～3.6)

経済学部商業学科通信教育課程の成績評価方法と単位認定内容については、シラバスなどに適切に記載されている。他大学や本学通学課程からの編入学者の既修得単位の認定は、認定範囲を定めて適切に行われている。

進級判定は、卒業判定と併せて教授会で審議されており、成績分布等のデータは通信教育学務委員会を通じて教授会に報告されている。学習成果の客観的評価のため、レポートや卒業論文などの不正を防ぐソフトウェアの利用を科目担当教員に促している。スクーリングによる最終試験、レポート添削や単位修得試験などによって、学習成果の把握は適切に行われている。

4 学生の受け入れ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	
<b>【学生の受け入れ方針】</b> 「社会に開かれた大学」として、高等教育の門戸を広く開放することは、通信教育課程の使命であると言える。このため、学ぶ意欲のある幅広い年齢層に対し、「いつでも、どこでも」学ぶことが出来る環境を整備することが必要である。その上で、高等教育機関であることを大前提として、学問に真摯に取り組み、生涯学習社会にあって、自己の知識や能力を社会に還元する意欲を持った人材を受け入れることを基本方針としている。	
①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
4.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	
①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。 定員充足のあり方については、通信教育課程全体にかかわる大きな課題である。文部科学省担当部署も本件について十分認識していることを確認している。学務部教学企画課と連携を図り、他大学の事例をはじめ、情報収集にも力を入れ、引き続き改善に向けた検討をしたい。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・大学通信教育設置基準	
4.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学生募集および入学選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
(～400字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。 学生募集および入学選抜結果については、毎年度、通信教育学務委員会で志願者数、合格者数、入学者数等の関連データが、ともに適宜報告される。データを踏まえ、通信教育課程主任および学務委員が現状と課題を教授会にフィードバックしている。志願者選考（通読判定）等は通信教育課程主任と学務委員が実施・検証している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・通信教育部の定員充足のあり方については、通学課程の設置・認可、アフターケア等への影響もあるため、引き続き学務部教学企画課と密に連携をとる。	

【この基準の大学評価】

<p>経済学部商業学科通信教育課程では、「社会に開かれた大学」の使命と直接に結びついた通信教育課程における学生の受け入れ方針が明確に規定されている。定員充足の在り方は通信教育部全体にとって大きな課題であるが、学務部教学企画課と連携を図り、他大学の事例等の情報収集にも力を入れ、引き続き改善に向けた努力が行われることが明言されており、成果を期待したい。学生募集および入学選抜結果については、通信教育学務委員会で検討されたうえで教授会にフィードバックされており、適切であると評価できる。</p>
---

5 教員・教員組織

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・経営学部執行部（学部長 1 名、教授会主任 1 名、教授会プログラム主任 1 名、教授会副主任 1 名、通信教育課程主任 1 名）
- ・教授会（原則として月 1 回）
- ・通信教育学務委員会/教養教育部会（原則として月 1 回）

【明示方法】※箇条書きで記入。

- ・法政大学通信教育部学則
- ・通信教育部学則に関する規程
- ・通信教育関係学部長会議規程
- ・通信教育学務委員会規程
- ・通信教育教養教育部会細則

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(~400 字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性の観点から教員組織の概要を記入。

大学通信教育設置基準の附則 3「この省令施行の際、現に通信教育を開設している大学の組織、編成、施設及び設備で、この省令の施行の日前に係るものについては、当分の間、なお従前の例によることができる」に拠り、通信教育課程専属の専任教員は配置していないが、教科担当者に必ず専任教員を配置し、また通学課程の教員が通信教育課程も併せ行う形で教育を行っていることで、カリキュラムにふさわしい教員組織を備えていると判断している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・大学通信教育設置基準

2017 年度専任教員数一覧

(2017 年 5 月 1 日現在)

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計
商業	28	2	0	0	30

※学校基本調査の教員数を記載。実際の所属教員数とは一致しない場合あり。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

通信教育学務委員会と教授会が連携するために、経営学部執行部として通信教育課程主任を選任し、通信教育学務委員とともにその任にあたっており、役割分担と責任の所在は明確である。通信教育課程専属の教員は配置されていないが、学部の専任教員が教科担当者となっており、適切な教育がなされていると評価できる。

## 6 学生支援

【2018 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われ

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

ているか。	
①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<b>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】</b> ※箇条書きで記入。 ・卒業判定は、進級判定と併せて教授会審議事項 ・休・退学は、学生からの申請に基づき教授会審議事項 <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
（～400 字程度まで） ※学生の生活相談に関する取り組み概要を記入。 通信教育課程の事務局である通信教育部事務部では学生担当を置き、学生の生活相談も含め学生対応に力を入れている。スクーリング開催時における学生周知文書等において、各種ハラスメントに対する防止について書面で案内を行っている。また、必要に応じて、学内に設置されているハラスメント相談室の活用案内もしている。 <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・『学習のしおり 2018』、p. 208	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

経済学部商業学科通信教育課程の卒業・卒業保留・留年者および休・退学者については、教授会で適切に把握され審議されていると評価できる。通信教育部事務部には学生担当があり、学生の生活相談に適切に対応するとともに、スクーリング期にハラスメント相談室の活用案内を行っており、評価できる。

7 教育研究等環境

【2018 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。	
①ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）、技術スタッフなどの教育研究支援体制はどのようになっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
（～400 字程度まで） ※教育支援体制の概要を記入。 情報実習など、一部科目において、通学課程同様、ティーチング・アシスタント（T・A）を採用し、教育研究支援の一助となっている。 <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・通信教育部全体の問題でもあるが、現時点において通学課程で運用中の授業支援システムのように	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

な教育研究環境が整備されていない。

### 【この基準の大学評価】

経済学部商業学科通信課程では、一部の科目でT.Aを採用しており、教育研究支援の一助となっている。

## 8 社会連携・社会貢献

### 【2018年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っていますか。

S  A B

(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

通信教育部商業学科では、2013年度より会計系の専門学校として有名である学校法人大原学園と業務提携をし、併修制度を運用している。2018年度の契約更新の際にも同制度の継続を検討している。卒業生との連携の強化を図っており、通信教育部ホームページにおいて卒業生による体験談の充実を進めている。これにより、本学の教育研究の魅力についてより広い周知が期待できる。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・法政大学通信教育部ホームページ

<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/events/reviewer/>

#### (2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

#### (3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

### 【この基準の大学評価】

経済学部商業学科通信教育課程では、2013年度より学校法人大原学園と併修の業務提携を行い、またホームページに卒業生の体験談の充実を進めており、評価できる。

## 9 大学運営・財務

### 【2018年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の役職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

①通信教育課程主任をはじめとする所要の職を置き、また通信教育学務委員会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。

はい  いいえ

(～200字程度まで) ※概要を記入。

経営学部では通信教育課程主任と学務委員設置による運営責任の明確化した組織体制を整えている。通信教育課程主任と学務委員は、月1回を目安に定期的に開催される通信教育学務委員会に出席すると共に、通読判定などの入学選考から卒業に至るまでの各種学事事項の審議に参加し、その詳細について経営学部教授会と緊密な連携を取っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・通信教育学務委員会規程

#### (2) 長所・特色

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

内容	点検・評価項目
・特になし	

### (3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

### 【この基準の大学評価】

経済学部商業学科通信教育課程では、規程により通信教育課程主任と学務委員を設置するなど、運営責任を明確にした組織体制が整えられ、また入学選考から卒業に至るまでの各種審議は通信教育課程主任と学務委員が参加する通信教育学務委員会でされ、その詳細については教授会と緊密な連携がとられている。

### III 2018 年度中期・年度目標

No	評価基準	理念・目的
1	中期目標	幅広い年齢層、多種多様な学問的関心、様々な入学動機などに応じるカリキュラムを提供し、実社会で通用する問題発見力・課題解決力を養う。
	年度目標	通信学習科目と各種スクーリング科目をバランスよく配置することによって、いつでも、どこでも学べる機会を提供する。
	達成指標	通信教育課程主任と学務委員を中心とし、通信教育学務委員会と経営学部教授会が連携を取りながら、教育理念と目的の達成について検証を行う。
No	評価基準	内部質保証
2	中期目標	学習過程・単位修得方法の厳正化
	年度目標	通信教育課程主任と学務委員を中心としたシラバスの第三者確認を入念に行う。また、シラバスの成績評価基準が適切に運用されているか授業改善アンケートなどで確認する。
	達成指標	成績分布などの各種データと授業改善アンケートと通信教育学務委員会での検討内容を踏まえ、単位修得が厳正に行われているか検証を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
3	中期目標	検証に基づく更なるカリキュラムの充実
	年度目標	通信教育部商業学科のカリキュラム・ポリシーに沿ったカリキュラムを提供する。とりわけ、通学課程と同一水準の教育が受けられる方向性の下で、カリキュラムの構成に努める。
	達成指標	成績分布などの各種データと授業改善アンケート結果に基づき、通信教育学務委員会と連携を取りながら、経営学部教授会で検証を行う。また、2019 年度開始予定の経営学部新カリキュラムと歩調を合わせたカリキュラムの提供を検討する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
4	中期目標	各種スクーリングに付き、更なる充実化を図る。
	年度目標	各種スクーリング科目の充実化に努める中で、とりわけ高いニーズがあるメディアスクーリングの拡充とその質の改善に取り組む。
	達成指標	通信教育課程の重点目標でもあるメディアスクーリング科目の拡充に努める一方、適宜振り直しを行うなどの方法でメディアスクーリングの質の改善を図る。その他の各種スクーリングについても担当教員の配置が適切に行われているか、経営学部教授会などで検証する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
5	中期目標	在学期間の短縮化に努める。
	年度目標	在学期間の短縮化は通信教育課程の共通課題でもある。学生の学習環境を配慮しつつ、学習ガイドンスなどを通じて学習プランについて立ち入った指導を行う。レポート添削、単位修得試験、スクーリングの最終試験などで学習成果の把握に努める。
	達成指標	成績分布、取得単位の推移などのデータに基づき、中長期的な視点で効果の測定を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
6	中期目標	離籍者の軽減に努める。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	年度目標	離籍者の軽減は通信教育課程の共通課題でもある。学生の途中離脱を軽減させるために、各担当教員がレポートの書き方指導の徹底化や学習意欲を高めるための更なる工夫を行う。
	達成指標	2000年度以降商業学科の離籍率自体は、通信教育部全体の離籍率に比べて高いわけではないが、計画的な学習プランの提示などを通じて、中長期的な観点から離籍率の推移を把握する。
No	評価基準	学生の受け入れ
7	中期目標	定員充足に向け、引き続き取り組んでいく。
	年度目標	定員充足は通信教育課程の共通課題でもある。学務部教学企画課と密に連携をとりながら、通信教育部ホームページのコンテンツ充実化に協力すると共に、入学相談・学習ガイダンス・授業の質の改善などに積極的に取り組むことによって、将来的には商業学科の評判の引き上げを目指す。
	達成指標	商業学科が、在籍者数基準では2014年度以降、入学者数基準では2007年度以降に、通信教育部の先頭に立っているが、引き続き、入学者数などの中長期的な推移を検証していく。
No	評価基準	教員・教員組織
8	中期目標	教育理念と目的を達成するために通信学習と各種スクーリング担当の教員を適切に配置・構成する。
	年度目標	経営学部専任教員の協力を得ると共に、新規採用の教員にも通信教育部での講義担当について了解を得る。
	達成指標	通信教育課程主任と通信教育学務委員会を中心とし、通信教育学務委員会と教授会が連携を取りながら、科目担当教員が適切に配置されているか、検証していく。
No	評価基準	学生支援
9	中期目標	不正行為を防止するための指導を適宜・随時行う。
	年度目標	試験中の意図的な不正行為だけでなく、レポート・卒業論文の作成時に不本意に剽窃などが行われないよう、不正行為防止案内冊子の配布、授業・学習ガイダンスなどを通じて注意喚起を行う。
	達成指標	通信学習と各種スクーリングにおいて授業形態別の不正行為に関するデータを蓄積し、再発防止に努める。
No	評価基準	社会貢献・社会連携
10	中期目標	社会人教育、生涯学習、再学習、社会連携の更なる強化を目指す。
	年度目標	多様な学習ニーズに応えるために、開かれた姿勢で学生を募集し、卒業生と在学生の繋がり場を強化していく。
	達成指標	2013年度から開始された本学科と大原学園間の併修協定について、引き続き継続を検討する。またこのような企業・団体との社会連携を発掘し、積極的に取り組む。卒業生による体験談などを通信教育部ホームページなどで引き続き公表し、学習モデルの提示と勉学の動機付けを行う。
<p><b>【重点目標】</b></p> <p>カリキュラムの充実化を図ると共に、高いニーズがあるメディアスクーリングの拡充と、その質の改善に努める。メディアスクーリングの科目によっては、理論の著しい発展、制度の変化、国際情勢の影響などにより、過去のコンテンツが陳腐化している可能性があるため、必要に応じて適宜撮り直しなどの対策を講じていく。すなわち、メディアスクーリングの量的・質的充実化に努める。</p>		

#### 【2018年度中期・年度目標の大学評価】

経済学部商業学科通信教育課程の中期目標、年度目標はともに適切で具体的であり、評価できる。中でも、中期目標として掲げられている「在学期間の短縮化と離籍者軽減」は大きな問題であり、困難ではあるが、今後の実現に向けての努力を期待したい。

#### 【大学評価総評】

経済学部商業学科通信教育課程の理念は明確であり、メディア教育などの「教育のオープン化」をさらに進められたい。また、今後はその質の改善に取り組むということであるが、その展開に期待したい。

また、在学期間の短縮化、離籍者の軽減、成績判定の公正性の確保などが中期目標あるいは年度目標に述べられているが、今後の具体的な対応を求めたい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。